

公表

事業所における自己評価結果 放課後等デイサービス評価表

事業所名		ぱぷりかランド		公表日		2025年5月29日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		・活動ごとに机、椅子等を動かし空間を有効的に利用している。 ・パーティションを活用し適切な空間確保している。	・子どもと先生たちにとって最適な環境である
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		・休みを調整し、常に5人配置することを徹底している。 ・活動内容、利用者の特性に応じて安全な人数を配置している。 ・5人を下回らないよう日々の確認を必ず行っている	・職員配置数はしっかりと順守し、安全面等配慮し対応している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	・施設入口、玄関は段差があるため今後改善が必要だと思われる。 ・入室後の流れがスムーズに行えるよう考えて配置されている。 ・身支度がスムーズに行えるようロッカーの配置や検温場所の導線に配慮している。 ・バリアフリーに関して外階段と玄関には配慮が必要だと感じます。 ・入口の階段が狭く急である。現状、通われている方は今のところ問題なし ・玄関の階段は靴の脱ぎ履きがしづらい	・生活空間というのは、ソフトの面が大切でこどもにわかりやすく構造化された環境になっている。また、事業所の設備等のハード面は、障害の特性に応じて対応する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		・毎日しっかりと清掃され、整えられている。活動ごとに配置を変える等工夫されている。 ・清掃、消毒、安全点検を日々実施。 ・毎日夕方に清掃するようにしています	・清掃、清潔は基本である。常に子どもファーストで考えている

	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	・パーティションで区切ったりすることで主活動ごとに配置を変える等工夫されている。 ・パーティションを有効活用 ・パーティションや事務所を活用しています ・個室はないがパーティションを用いて個室同様の環境を作ることができる	・常に子どもファーストである。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13	・丁寧な支援会議が行われており職員が参画し周知されるよう工夫されている。 ・朝、帰りのミーティングで振り返り ・活動目的とそれに対する課題を挙げるようにしています。 ・職員全員が情報共有できる環境になっている。参画できる職場環境である。	・当事業の先生は県下一勉強し、常にブラッシュアップをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	・保護者の意向意見が現場にすぐ伝わるよう取りまとめ、会議され改善につながっている。 ・ご意見やご意向を全職員で共有し改善策をあげ実行に努めている。	・保護者の意見は全職員ですぐ共有している	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	・保護者の意見同様、職員の意見もくみ取る機会が多く有り改善につながっている。 ・朝、帰りのミーティングを設け繋げている。 ・支援プログラム、個別支援会議等行い都度改善につなげていると思う	・職員の意見も重要視しており、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	5	・必要に応じて外部評価を考えていきたい。 ・今後外部評価を受ける機会を検討したい	・リスペクトできる外部機関があればお願いしたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	・社長研修や新人研修をはじめフォローアップの機会が多く取り入れられている。 ・月1回社長研修、新人研修（随時） ・社長自ら理念等の研修を行っており資質の向上につながっている ・勉強する場を設けて頂きありがとうございます。	・ぱぷりかの先生は千葉県下で一番勉強をしており、向上心もあり、研修はもとより、常日頃から学んでいる。他の事業所のお手本となる。	

適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	・ 支援プログラムを印刷しお渡ししている ・ 月1回のミーティングは開かれ各先生のアイデアを持ち寄っています	・ すべてのプログラムには意味があります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13	・ 対面でアセスメントを行い分析作成している	・ 子どもや家庭環境等の課題まで視野に入れています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が 共通理解 の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	・ 子どもの支援に必要な情報が丁寧に会議等で周知され共通理解した上で支援されている。 ・ 個別支援会議を実施 ・ 支援計画の情報共有をしています。集団、個別、両方の課題や目的などを職員間で共通理解をしています。	・ 全職員が常に共通理解をしている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に 共有 され、計画に沿った支援が行われているか。	13	・ 個別支援会議で共有 ・ 計画書は常に目に入るところにあり日頃から意識することができる	・ 全職員で共有しています
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いた フォーマルなアセスメント や、日々の行動観察なども含む インフォーマルなアセスメント を使用する等により確認しているか。	12	1 ・ 個別療育観察記録、振り返りシートにて確認	・ 行動観察はただ見ているだけではなく、子どもの内に秘めた気持ち感情まで視野に入れています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「 本人支援 」、「 家族支援 」、「 移行支援 」及び「 地域支援・地域連携 」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	・ 集団個別活動を通じて具体的に設定。	・ すべては子どもの成長につながるかどうかで判断しています。 「本人支援」、「家族支援」はきちんと対応しています。「移行支援」はケースがまだ少ない。「地域支援・地域連携」は当事業所のイノベーションが必要と思います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	・ 始まる前にミーティングをし内容を共有している。 ・ 毎月支援プログラム会議を行っている	・ 当事業所は県下No1のチーム力がある。

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	・ 支援プログラム会議にて各自考えを出し合い決めている。 ・ 季節行事を入れながら毎月変化を持たせています。	・ 「音楽療育」をベースにしているので子供の状況によりフレキシブルに対応することができる
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		・ こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせに適しているのが音楽療育です。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	・ その日のリーダーを中心に活動の流れや留意点など話し合っています	・ 全職員が常に共通理解をしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	・ 打合せ内容を日誌ミーティングノートに記録し共有している。 ・ その日に知り得た情報は必ず記録に残し共有しています	・ 全職員が常に共通理解をしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	・ すべて記録し改善共有している。	・ 課題があればすぐに改善行動をします
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	・ 定期的に対面で実施 ・ 半年に1度のサイクルで行っている	・ 定期的なモニタリング以上の保護者とのコミュニケーションをとっています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	13	・ 4つの基本活動の項目と日々の活動を合わせて考えるしっかり網羅できていると思う。	・ 特にぱりかでは自然体験活動、社会体験活動を行っており、新しい遊びへのチャレンジによる成功体験、自然の中での自由な発想の遊び、子どもの意志を尊重した遊びや第三者との関りなどまさに基本活動が盛りだくさんの活動を行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13		・ 決めたプログラムの中でも子ども本人の意思選択を取入れた内容になっている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		・ 管理者または児発官が参加します。

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			・関係機関という相手がいるので相手の都合等で十分には対応できていないが、努力していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12	1	・ご家族からの連絡を参考にし行事等の共有をしています。	・学校側での不適切な対応の声をよく聞きのでそれにはきちんと対応処理していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	3		・保護者の考えのもと積極的に柔軟に対応している。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	4	・今後していきたいです	・移行のケースがまだかなり少ない為まだ不十分ではあるが本人へのフォローは卒業後も対応している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	5	・あさひ育成園PTの先生に来所頂きアドバイスして頂きました。	・必要な時に個別対応をしている ・当事業所がスーパーバイズとして多方面に助言し連携を図っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	11	・子ども館に行き活動しました	・数としては多くはないと思います。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	9	・今後していきたいと思います	・予定があれば参加します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13			・当事業所が送迎をあえておこなわないのは、この項目の充実の為です。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13		2ヶ月に1回勉強会開催	・ぱぷりかは「家庭教育」も重視しているので家族支援は手厚くしています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13			・利用者負担がある場合はきちんと説明納得いただいています。

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、 こどもの最善の利益の優先考慮 の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		・対面で面接実施	・すべての 判断基準 は 子どもの成長になるかどうか です。
	38	「放課後等デイサービス 計画 」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の 同意 を得ているか。	13			・保護者様とのコミュニケーションはしっかりとっています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		・モニタリング以外でも希望があれば保護者面談を設けている。 ・日々の送迎時や連絡帳などで保護者と密にコミュニケーションを取りフォローをしている。 ・適時行っている ・個別対応が必要と感じた時は家族支援を行っている	・いつでも相談できる環境を整えています
	40	父母の会 の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、 保護者同士で交流 する機会を設ける等の支援をしているか。また、 きょうだい同士 で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	5	・2ヶ月に1度保護者会を開いている ・前向きに検討したい ・保護者勉強会をその場にあてています ・今後兄弟同士の交流も検討したい	・まだまだ不十分なので楽しい企画を考えます
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		・ご意見は真摯に受け止めて改善する事とご理解を求める事を話し合っています	・ 苦情は宝 ！迅速に対応します
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		・月1回通信発行、掲示板の活用 ・月に1度発行しています	・ぱぷりかの考え方や方向性をお伝えする活動は行っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13			・プライバシーマーク保持企業である
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13			・いつでも相談できる環境を整えています

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、 地域に開かれた事業運営 を図っているか。	6	7	・慎重に検討したい ・接待はありませんが特別養護老人ホームに伺った経験はあります ・招待ではないが訪問する形で開催した	・「音楽療育」をベースにしているのでそれにふさわしい行事を考えています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13			・常にブラッシュアップを心がけます
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		・訓練、普通救命講習受講	・常にブラッシュアップを心がけます
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13		・アセスメントシートにご記入頂き把握しています	・全職員、共通認識をもっています。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	3	・食品を使用するプログラムがないため ・対象の利用者なし ・屋外活動では保護者との確認を必ず行っています	・医療的要素が高い場合は特に配慮しています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13			・安全計画は現状にと止まらずより良くなるよう心がけています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	1		・安全計画は現状にと止まらずより良くなるよう心がけています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		・集計し改善策をあげている ・定期的に共有する機会を設けている	・他者の事例も含めヒヤリハットがある場合は共通認識を持ちます
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	2	・研修されていると思うのですがまだ参加できていないです。	・職員の働く環境を常に改善します
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	4	・身体拘束に該当する児童、過去の事例なし ・今のところ身体拘束が必要な状況ではありません	・本人または他者にケガが発生しないよう心がけています。